

<ひとこと> 食欲の秋、体はすでに冬支度。ダイエットに成功しないまま、健康診断に臨みます…

## 第3回あいネット運営委員会開催

## 「ひきこもり」について

などが意見として挙げられました。あいネットでも、中学校時代から学校に行くのが嫌になり高校へは進学せず、今年(十九才)から近所のコンビニでアルバイトを始めた青年を知っています。

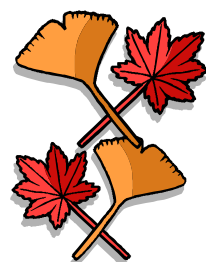
・(保護者から)相談があるが、本人に会うことが出来ない。  
・就職という最終的な解決につながらない。  
・学生さんは不登校になると社会的な居場所がなく、(地域の)施設を利用してくれる場合もある。先日、施設で家庭訪問が行われた。  
・お祭りで出会った青年(障害を持つ人との関わりが自然だった方)は、引きこもりの経験があったこと。(職員よりも上手かった?)  
・若いうちからのかかわりの大切さを感じているが、結果的に生活に行き詰ってからの相談が(保護者などから)多く、対応が複雑・困難化している。

委員さんからの意見で、

\* \* \* \* \*

今年度、運営委員会は毎回テーマを設けて開催しています。今回は「ひきこもり」というテーマで、かわ地域若者サポートステーション 照内様、NPO法人三アイの会 木内様をゲストスピーカーにお迎えして開催しました。お二人にそれぞれの活動の現状と問題点について、お話しいただき質疑応答を行いました。今回のテーマは、ライフステージにより、日々のサポートや課題については幅の広い議論となりました。

何がきっかけなのか?それは本人しか分からないことであつても、とにかく寄り添うことの大切さを痛感しました。次回は「住まい」をテーマに運営委員会を開催する予定です。  
ちなみにある委員さんから「かわ地域若者サポートステーション」さんへ「若者って、何才までなのですか?」と質問。「ジョブカフェは三十五才までなのですが、(サポートには)四〇才前後の方も来所されています。」との答え。つまりアラフォーは、制度的に若者なのですね。

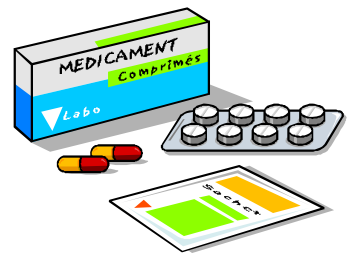


## 第1回柏市自殺予防対策連絡会議

「自殺対策のための人材養成(認知行動療法士)心の健康に関する資格について、英国の政策を参考に」と題して(千葉大学大学院医学研究 院 神経情報統合生理学 千葉大学予防医学センター 清水栄司先生)より講話に参加しました。  
(以下、当日資料より抜粋)

- ・「うつ病や不安障害の診察ガイドライン」→第一選択「心理療法」あるいは「薬物療法」
- ・日英の医療システムの違い(英)国営医療が実施され、基本的に医療は無料。登録している家庭医→(必要性の判断)→病院へ紹介→家庭医と専門家での明確な機能分化。(日)家庭医と専門家の区別は不明確で、専門家へのアクセスの良さは患者側にとっては非常に利便性が高いが、多くの患者を診察しなければならない専門家の疲弊、燃え尽きが著しく、医療崩壊が危惧されている。(家庭医と専門家の役割分担)
- ・(英)うつ病、不安障害の治療ガイドラインを現実化するために予算化された(2008)→認知行動療法の専門家を養成する政策。
- ・心理職の上位資格として「認知行動療法士」を県及び柏市にて養成することが、心の健康を増進し、自殺対策につながる。

質疑応答では、(文化的な背景の違いを含め)「食事」や「薬物療法」との関係や啓蒙についての意見が出されておりました。これからの「どのくらいの効果」があるのか?ということの積み上げが大切とのことでした。



## かわ地域で

## 「ひとこと」



自分の身近な相談者: 考えてみると「その道の先輩」だと思えますが、そう思うようになったのは、きっかけがあるので、その話しをさせていただきます。

自分は作業療法士の資格を取得して、リハビリの仕事をしていました。就職したての頃、直属の上司はいませんでした。自分は「先輩がいなくても一人でできる」と思い、気にせずに仕事をしていました。しかし、次の年に直属の上司(先輩)ができて一緒に仕事をするようになりまし

## 身近な相談者は「その道の先輩」

また、相談相手が自分の目標になることもありました。この経験を通して「やっぱり先輩って必要なんだ」と思うようになり、相談者がいることに有難さを感じています。身内では親もそうですが、年齢に関係なく、弟にも相談することがあります。身近に相談者がいるので、何かあつたときもサポートがあるとあって、頑張れる自分がいます!

柏メンタルクリニック 作業療法士 高橋 健

## とくべつに 今、始まったことじゃない!! その②

~日々のご相談から、感じること~

『高等部に進学して、課外活動に参加。今までスクールバスや事業所の送迎を利用して、日中一時支援を使っていました。でも下校時間が延びたので、送迎サービスが使えません。本人は何度か練習すれば、一人で歩いていけると思うのですが…どうしたらいいのでしょうか。うちは共働きなので一緒に行く事はできなくて。やっぱり課外活動は控えた方がいいかな。なるべく参加させたいんだけど』

## →「とにかくやりましょう。やりながら、一緒に考えていきましょう!」

という記事を先月号に掲載いたしました。今回はその続きです。その後、さまざまなボランティア関係機関へ相談に行きました。そして、特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所さんのご協力を得て、ほぼ毎日、帰り道の見守りサポートを継続中です。今後は学生さんのボランティアさんとの出会いがあるといいなと思っています。きっと彼も、私のようなおっちゃんと一緒に帰るより、年のちかい人との出合いを望んでいるのかな?







# 柏市防災福祉K-Netって?



福祉関係の方は一般市民に比べ名前を知っている方は多いのではと思いますが、どうでしょう?  
 かくいう私も名前は知っていますが具体的な内容はよくわからなかったもので、先日、担当者に来てもらい学習会を開催しました。  
 簡単に言うと、町会単位で、要援護者(災害時人の支援が必要な高齢者、障害者)が登録し、支援者にも登録してもらい、要援護者1人に対し、2、3人を支援者としてマッチングします。普段から知り合っていないといざというときに役立たないのでは、日頃から顔合わせをしたり、町会の防災訓練などしたりします。(災害時といつてもいろいろな状況がありますので、支援者も罹災して動きがとれない場合にまで無理をしないということではありません。)

こんなイメージです。町会には説明会を行い、やっていこうという町会が手を挙げる方式です。防災の拠点は近隣センターとなります。阪神・淡路大震災の時の死者はほとんど高齢者で、阪神地域では誰がどこに住んでいるのかわからなかったためいろいろ後手になったのに比べ、淡路島はほとんどその日のうちに安否確認ができ、その後対応に役立ったとのこと。安否確認ができる範囲の地域が町会単位となるわけです。しかしその町会も地域コミュニティとして成り立っていない現状があり、このNETもその影響

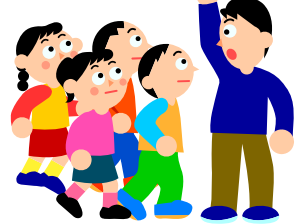
を必然的に受けており、なかなか進んでいないのが現状です。防災ということは誰にも共通の課題です。  
 先にしくみありき(に見える)で人を動かすのは大変のようです。地域によっては障害者団体が率先して地域に呼びかけ、防災訓練を行っているところもあります。うまく行っている町会はある人が、自分

## 災害時の情報保障を!

聴覚障害者関係の柏市4団 聴覚障害用の報知器はストロボの主催による講演会にお邪魔しました。講演は中園秀喜ですが、かなり高額のもので、魔しました。講演は中園秀喜ですが、かなり高額のもので、氏。聴覚に障害を持つ自身の各部屋につけるとなると大きな体験から、とても具体的でわな負担です。助成制度はありかりやすい内容でした。自らもですが、手帳の級での制限と家使用しやすい用具を常に考え、族に健常の同居者がいければ実用化したり広報したり、講けられないなどが立ちふさが演にも走り回っていらつしやるります。同居の人はいつも傍に居るとは限りません。いないときこそ危険なのです。設置義務は知っていても、自己負担が大きいため設置しているのは1割くらいだといえます。

聴覚の障害は見た目ではわからないために誤解されやすいこと、一番の弊害はそのために聴覚障害者そのものの理解を遅らせてきたことにあります。以前、盲学校に聴覚の人も通っていた時代に学校で火災があった時に、死者が出たのは聴覚の障害者のみだったというデータが示されました。視覚からの情報が取れなかった悲劇です。今火災報知器の設置が義務付けられていますが、聴覚障害にとっては一般のものでは役に立ちません。

流にアレンジして声をかけているとか。あるいはやり始めたら、何も高齢者や障害者だけでなく自分たちの問題だと気づき、独自に要援護者対象を考えている地域もあるとか。うーむ、地域の活性化や地域再生を防災で!というのは現実味があるのではと大いに思いました。



## おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707FAX:04-7165-8709)まで◇

| 講演名   | 日時                          | 場所  | 費用                          | 申込み                                  | 問合せ先   |
|---|-----------------------------|---|-----------------------------|--------------------------------------|--|
| <b>中核地域生活支援センター</b><br><b>県民と行政が協力する地域社会</b><br><br>基調講演<br>『地域における新たな支えあいを求めて<br>～住民と行政の協働による新しい福祉』<br>講師:中村秀一さん<br>(前厚生労働省 社会・援護局長)<br>シンポジウム<br>『中核地域生活支援センターの評価と課題』 | 11/11(水)<br>13:30～<br>17:00 | 千葉市生涯学習センター<br><br>住所:千葉市中央区弁天<br>3-7-7<br>電話:043-207-5811        | 無料                          | 必要                                   | 千葉県中核地域生活支援センター<br>連絡協議会事務局<br>(中核地域生活支援センターのだネット内)<br><br>住所:野田市尾崎 840-32<br>TEL:04-7127-5366<br>FAX:04-7127-5367   |
| <b>第2回 地域子育て支援セミナー</b><br><br>講演:子育て支援者に求められているもの<br>『nobody's perfect 完璧な親なんていない』<br>から学ぶ<br>講師:足立 千賀子さん(助産師)<br>他、パネルトーク  | 11/14(土)<br>13:30～<br>16:00 | アーバンデザインセンター<br>UDCK<br>(つくばエクスプレス・<br>柏の葉キャンパス駅前広場)<br><br>※託児あり | 無料                          | 不要<br>(定員<br>50名)                    | 主催:地域ささえあいネット<br><br>事務局:<br>ワークスコレクティブういず<br>電話:04-7134-7201  |
| <b>不登校児童・生徒を持つ親への相談会</b><br><br>『家族っていいなあ。家族史を作ろう』<br>講師:NPO法人教育支援三アイの会理事長<br>木内 昭さん  | 11/19(木)<br>14:00～<br>17:00 | ニッセイ・ライフプラザ柏<br>セミナールーム   | 無料                          | 不要                                   | NPO法人教育支援三アイの会<br><br>住所:柏市柏 3-6-14<br>TEL:04-7162-2130<br>FAX:04-7162-2140<br><a href="http://www.geocities.jp/kashiwa_kosodate/">http://www.geocities.jp/kashiwa_kosodate/</a> |
| <b>音楽療法と実りある子育て</b><br><b>～輝く笑顔のまま大きくなあれ!～</b><br><br>講師:苫米地 裕実(とまべちひろみ)先生<br>(トマ幼児教育・音楽療法研究所主宰)  | 12/6(日)<br>13:30～<br>15:30  | さわやかちば県民プラザ<br>中研修室2  | 会員<br>無料<br><br>非会員<br>500円 | 必要<br>(先着<br>80名)<br>〆切:<br>11/30(月) | NPO法人自閉症サポートセンター<br><br>住所:柏市松葉町 6-11-8<br>TEL&FAX:04-7105-7299<br>mail:js-center@jcom.home.ne.jp  |